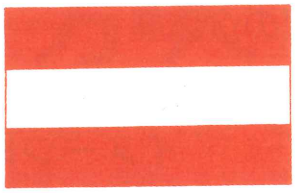
高知県立坂本龍馬記念館だより

飛騰

平成７年５月
第13号



海援隊旗

全国から50万人

高知県立坂本龍馬記念館
館長　小　椋　克　己

この５月15日、この数字が現実のものになりました。思えば平成３年11月オープンした時には考えつかない数字でしたが、約３年半に良くぞこれ程来て頂けたものと、感慨を新たにしています。お引き立てありがとうございました。

ところで、あまり知られていない龍馬と福井藩との関係をとり上げた春の企画展「坂本龍馬と越前福井藩」も好評のうちに終りました。

龍馬の活躍は、勝海舟の門下生になり、神戸の海軍操練所に取り組むところから始まりますが、勝海舟と会う過程がまた面白い。

企画展の年表によれば「長い脱藩道中ののち文久２年８月、かねて世話になっていた江戸桶町の千葉定吉道場に入り、もうその月のうちに越前福井藩の江戸屋敷に藩主松平春嶽を訪ね、謁見を許される。この席で龍馬は、勝海舟と横井小楠への紹介を依頼、２か月後の10月待望の会見が実現し、その場で門下生となる」とあります。

いきなり殿様に会い、家臣クラスへの面会を斡旋してもらおうという発想が龍馬らしいところですが、ここに、龍馬が19歳（９年前）から世話になっている千葉定吉道場の息子、重太郎が越前福井藩の剣道指南をやっていたこと、従って龍馬と福井藩士との交流があり、「龍馬情報」「春嶽情報」が活きていたこと、などのファクターを入れて見ると、柔軟な頭脳を持つ春嶽と龍馬の会見は自然の流れと言えます。龍馬が経験や出会いを活用した一例でしょう。

この企画展示には福井新聞から取材チームが来館、４月15日付の文化面で詳しく紹介し、福井放送もとり上げてくれました。

この展示を置き土産に、創業メンバーの下元、岡林両学芸専門員が新メンバーと交代しました。ありがとうございました。

夏の企画展
ぼくの龍馬・わたしの龍馬 イメージ画展ご案内

本館では、平成５年８月、夏休み企画展として、「ぼくの龍馬・わたしの龍馬―坂本龍馬イメージ画展―」を開催しました。全国の龍馬ファンの方々から554点の龍馬が寄せられ、それぞれの作品から龍馬への思いがあふれました。

今回は、龍馬へのイメージを一層拡大しようと「ぼくの龍馬・わたしの龍馬イメージ画展パートII」と銘うって、審査員に漫画家はらたいらを招き、サイズもハガキ大からＡ４サイズにまで広げました。

新しい日本の創造をめざして命がけでかけめぐった坂本龍馬、そのエネルギーは日本の行方をさししめしながらも、実現を目前に33歳の生涯を終えました。土佐の生んだ偉大な星坂本龍馬、その龍馬のイメージを絵にして下さい。龍馬の子どものころ、大人になって見せたと思われる真剣な表情、笑顔や悲しそうな顔、困った顔、そして命をかけての活動の場面、龍馬を取り巻く人々の登場も結構です。それらの場面など想像しそのイメージを心に描き、そしてそれを絵にして下さい。

1　応募のしかた

①イメージ画は、はがき大からＡ４までの大きさの用紙に書いて下さい。
（はがきそのものに描いても結構です）

②応募作品の裏面には、
郵便番号　住所　氏名　年齢　電話番号を
を忘れず書いて下さい。

③応　募　先
781－02 高知市浦戸城山830
高知県立坂本龍馬記念館
「ぼくの龍馬・わたしの龍馬」係あて
（なお、応募された作品はお返ししません）

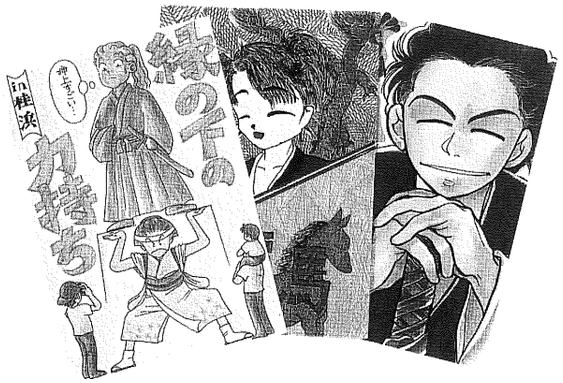
2　提出期間
平成７年６月30日㈮必着

3　審 査 員
はら　たいら（漫画家）
小椋　克己（坂本龍馬記念館長）他

4　表彰及び表彰式
作品は審査員選考の上、
最優秀（１点）優秀（５点）入賞（若干）
をきめ、賞状と記念品を贈呈します。
表彰式は７月22日㈯午前10時、坂本龍馬記念館で行います。

5　展示期間
平成７年７月22日㈯～８月31日㈭

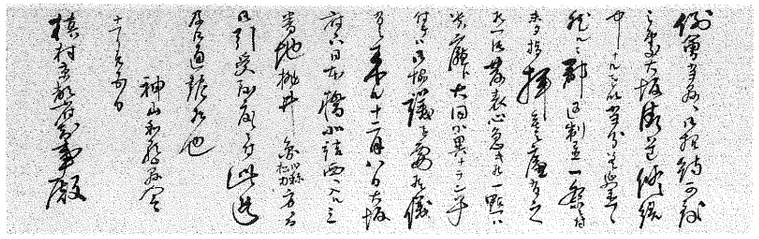
なおお問い合わせは、
ＴＥＬ　0888－41－0001
ＦＡＸ　0888－41－0015
高知県立坂本龍馬記念館内
「ぼくの龍馬・わたしの龍馬」係となっております。
多くの方々からの応募をお待ちしております。



―前回の作品から―

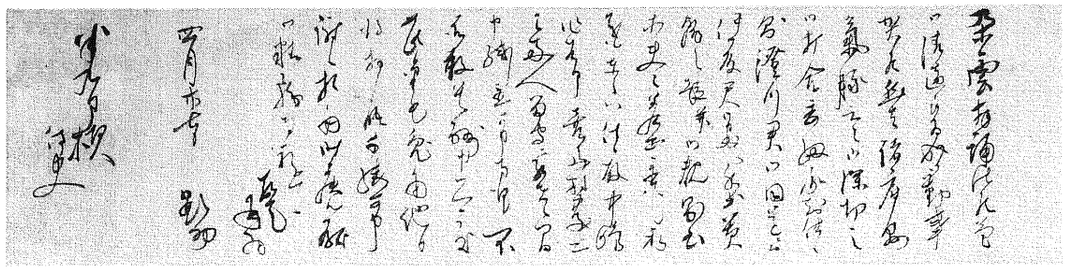
新収蔵品紹介

神山郡廉（こうやまくにひろ）書状　一通



神山は文武に通じ性格は廉潔、郡奉行や大目付を勤め、慶応３年10月山内容堂の大政奉還建白書の提出にあたっては、後藤象二郎等と共にその副書に連署した。明治政府に出任し要職を歴任した。本書状は神山が和歌山県令の時、槇村京都府知事宛に例会を当県へ招待すべきを当分延期し、その他の協議を申し出たもの。

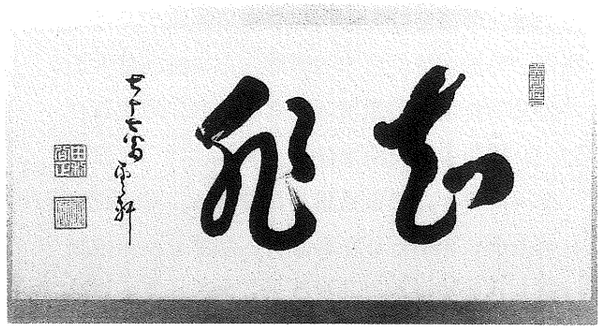
田中顕助（たなかけんすけ）書状　一通



初称浜田辰弥、武市半平太に師事し、土佐勤王党に加盟。元治３年脱藩して長州に奔り、後中岡慎太郎の陸援隊に入る。光顕と名を改め明治政府に出任し要職を歴任し、12年間に渡って宮内大臣も勤めた。なお、郷里佐川に青山文庫を創設した。本書状は、京都府知事槇村正直宛のものであり、打ち合わせ委細承知した事を述べている。

由利公正（ゆりきみまさ）篇額　一面

旧姓三岡八郎　福井藩士。越前に来遊した横井小南の実学思想に傾倒し、５か年を費して独力で藩財政の実態調査を行い財政通となった。慶応３年福井を訪れた坂本龍馬と新政府の財政等について会談し、龍馬の推挙で明治政府の徴士参与職に抜擢された。本額は「非なるを知る七十七翁雲軒」とある。



坂本龍馬と
宇和島藩、大洲藩

下　元　正　清

1、はじめに

私は去る３月23日より３日間、「いろは丸事件」を主とする調査のため、愛媛県宇和島市、大洲市方面へ出張した。

「いろは丸」については、森本　繁著『いろは丸事件の謎を解く』（新人物往来社）の内容以上の記録を見つけることはできなかったが、大洲市の寿永寺に葬られている、国島六佐衛門の墓を詣でることができた。

ところが、宇和島市立伊達博物館で求めた『児島惟謙小伝』（青野　暉著）や、大洲市立図書館で閲覧した『大洲市誌』により、坂本龍馬と児島惟謙や大洲藩士との間に接触があったことを知り、喜びと驚きが交錯した。

それについて、若干述べることにする。

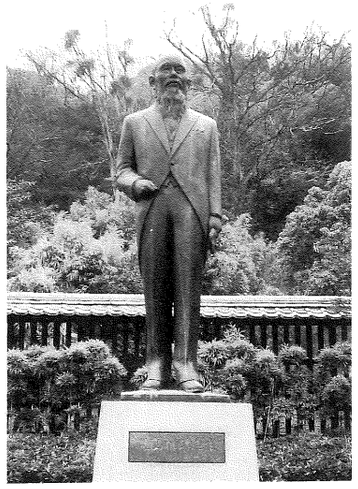
2、坂本龍馬と児島惟謙（こじまいけん）

明治24年５月６日、児島惟謙は大審院長（現在の最高裁判所長官にあたる）に任命され、その５日後の11日に、日本国内を揺るがす大事件が起きた。

当時、来日中のロシアのニコライ皇太子が、琵琶湖観光を終えて馬車で大津市内にさしかかった時、警備をしていた巡査津田三蔵が、突然抜剣して皇太子に切りつけた。その為、皇太子は頭部を負傷し、津田はその場で取り押えられた。いわゆる「大津事件」である。

事の重大さに周章狼狽した政府は、惟謙に対して津田を死刑にせよと圧力をかけたが、惟謙は頑としてそれを受け付けず、国内法を適用して無期徒刑とした。このことは、憲法に示された司法権の独立を確立したことを意味する。

児島惟謙は、天保８年２月１日、宇和島藩家老穴戸家の家臣金子惟彬、直子の次男として生まれた。（龍馬より２歳下）



児島惟謙像（宇和島市内）

家庭的に恵まれず、出生後間もなく母が離縁したため、１歳５か月から５歳まで田中家へ里子として出された。その後も家が貧しかったことや、次男であったために、転々と他家へ預けられて苦労した。21歳になった時、藩の家老職梶田長門に招かれた。

慶応元年４月、藩命により長州三田尻、下関に赴いて探索した後、６月に長崎に入って10月まで滞在する。

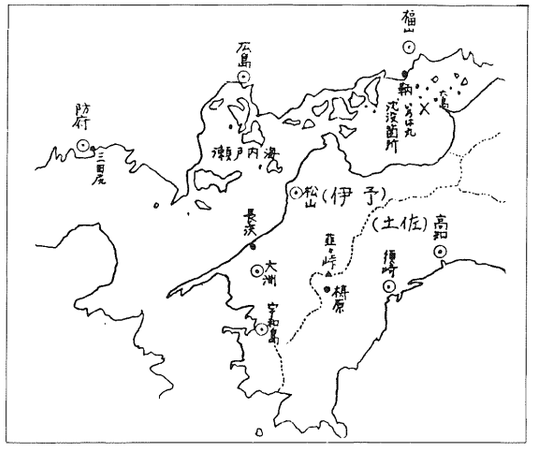
この長崎滞在４か月の間に、惟謙は坂本龍馬や薩摩藩士五代友厚と出会い、彼等から世界事情や国内情勢、天皇親政による統一政府の樹立等の話を聞く。彼等の話に共鳴した惟謙は、自分の抱いていた攘夷論の誤りを悟る。

龍馬も惟謙の優れた資質を認め、諸藩遊説を依頼したものらしく、惟謙は10月に長崎を発ち、佐賀、久留米、柳川、熊本、豊後の諸藩を歴訪して、11月に帰藩している。

その頃、龍馬は亀山社中が成立したばかりで、それの経営も並み大抵の苦労があったろうが、更に中岡慎太郎を扶けて、薩長和解のために奔走していた。

したがって、龍馬と惟謙は頻繁に会っていたとは考えられない。

惟謙はその後、慶応３年５月に脱藩し、勤王活動に挺身する。



3、龍馬と大洲藩使者との出会い

幕末期の土佐藩の動向は、とかく他の諸藩から注目されていた。

大洲藩では武田敬孝の建言により、支藩である新谷藩にも呼びかけて、使者を４回土佐へ派遣している。

１回　慶応２年６月　大洲藩、新谷藩
２回　慶応３年１月　大洲藩
３回　慶応３年８月　新谷藩
４回　慶応３年９月　大洲藩

第４回の大洲藩使者と龍馬が、須崎の旅宿で会見した模様を、『大洲市誌』では次のように述べている。

> 大洲藩大橋釆女（正使）。武田敬孝（副使）は９月25日高知城下に到着した。国書を呈したが、宿泊の間に多くの情報を得ることができた。10月４日高知を出発して、その夜は須崎に宿泊した。隣宿に才谷梅太郎（坂本龍馬）の来泊を知り、約して翌５日会見した。京摂の事情や薩長の動きなど新情報が提供され、いろは丸沈没処置についても論議するところがあった。竜馬が暗殺される40日ほど前のことであった。
>
> （小東遊日記）

これは龍馬が洋銃1,000挺を持参して、最後の帰郷をした時のことである。1,000挺の洋銃を無事に藩に買い取らせ、京摂の情報や薩長の動向を藩重役に説明した龍馬は、戸田雅楽を伴うて５年振りに我が家に帰った。家族や知人と再会し、土佐の酒を心ゆくまで飲みながら、数日を愉快に過ごしたことであろう。

10月１日、龍馬の乗った芸州藩船震天丸は浦戸を出発。室戸沖で波浪のために故障し、止むを得ず須崎港に引き返した。５日土佐藩船空蟬に乗り替えて出港し、上坂している。

したがって龍馬が大洲藩使者と会見したのは、５日の空蟬船出港前であったろう。

「小東遊日記」の記録は、正確といってよい。

4、まとめ

龍馬が児島惟謙や大洲藩使者と会ったという話は、平尾道雄氏や宮地佐一郎氏の著書には出ていない。『維新土佐勤王史』や『山内家史料』にも載っていない。大洲藩や新谷藩の使者が、情報を求めて来高したということさえ、『山内家史料』に載っていないのはどうしたことか。

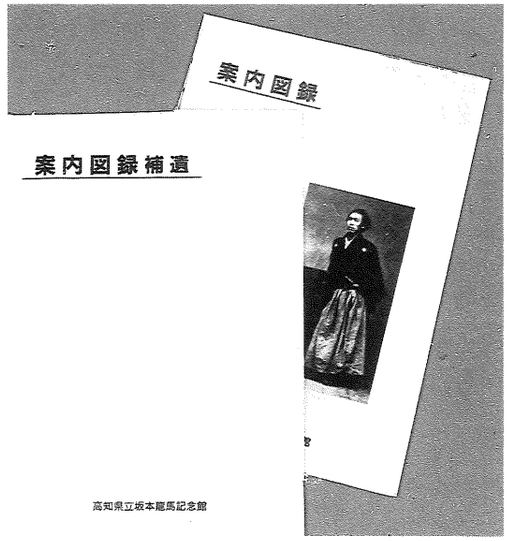
しかし宇和島藩や大洲藩では、いろは丸問題をはじめとして、龍馬と関わった話が断片的ではあるが存在する。

これらの話は、龍馬に関して今迄空白であった部分を埋めるとともに、当時、才谷梅太郎（坂本龍馬）の名前が、京都以西の諸藩に鳴りひびいていたことを物語るものである。

今後、愛媛県の研究家によって地方史を掘り起こす場合、あらためて龍馬との関わりについて、関心をもって研究していただきたいと願っている。　（前 坂本龍馬記念館 学芸専門員）

『案内図録補遺』刊行

本館では平成６年３月、館所蔵及び制作品などを収録した『案内図録』を出版し好評を得てきました。しかし企画展等を通じ制作してきた本館独自のパネルについては、その内容は豊富であり、龍馬理解のうえでは貴重な資料でありながら、本篇では縮少された解説文について、「判読しにくい」というご指摘がありました。それにお応えするため、館独自の展示品である「自作パネル」に限定し『案内図録補遺』として、『案内図録』と同じＡ４サイズで出版しました。すでに企画展などにおいて好評を得てきたパネルを項目的、系統的に整理したものであり、龍馬活動の足跡をたどるのには好資料です。



その内容は

1　坂本家を中心とした姻戚関係
2　坂本家才谷家系図
3　幕末青春群像
4　長州（山口県）を訪ねて
5　船中八策から大政奉還へ
6　龍馬脱藩の道
7　いろは丸沈没事件
8　亀山社中の設立そして海援隊へ
9　土佐藩士佐々木高行日記『保古飛呂比』抄
10　ワイルウエフ号沈没事件
11　イカルス号水夫殺害事件
12　坂本龍馬ゆかりの長崎
13　龍馬没後の海援隊
14　桂浜の坂本龍馬銅像物語
15　長崎市風頭公園の坂本龍馬像
16　京都円山公園の坂本龍馬像

17　鹿児島市天保山公園の坂本龍馬・お龍の旅碑
18　武市瑞山と坂本龍馬
19　坂本龍馬いまだ浮揚せず

となっています。

『案内図録』『案内図録補遺』２冊セットで1300円(郵送料380円）ですが分冊も可能です。

『案内図録』のみでは800円、『案内図録補遺』のみで500円（郵送料310円）となっています。

郵送ご希望の方は

郵便口座番号0640－５－15946
高知県立坂本龍馬記念館

をご利用下さい。

"新任です" よろしく

学芸専門員　**地　引　葆**

４月１日の人事異動で坂本龍馬記念館でお世話になることになりました。龍馬の偉大な足跡については、人並みの知識しか持ち合わせず専門家でもない私にとっては、先輩学芸専門員の下元・岡林両先生の業績を思うにつけて尻込みする気持ではありますが、何とか先輩の後を汚さないよう頑張らなければと決意を新たにしているところです。

さて本館は名勝地桂浜を前景にして浦戸城跡に誠にユニークな存在を誇っていますが、内部の展示資料に目を移すと十分とはいえない思いを否定できません。龍馬の手紙等遺品は他の志士等に比し多いほうですが、全国の研究者に発掘され尽くして新発見の殆んどないのが昨今の現状です。坂本龍馬記念館発展のためには、展示資料の充実は不可欠と存じますので、全国の龍馬ファンの皆様にご協力を心からお願い申し上げまして新任のご挨拶といたします。

学芸専門員　**宅　間　一　之**

幕末風雲の中、新しい日本の創造めざし一気に駆け抜けた坂本龍馬、その卓越した先見性や生き方については幾度となく生徒たちとも語りあってきました。今その龍馬と本当の出会いが実現した思いがしております。

開館以来関係者のたゆまぬ努力で、記念館も次第に充実隆盛の一途をたどってきました。先輩学芸専門員の方々の築かれた大きな礎の上に、記念館としてふさわしい立派なものをと思うと責任は重大です。龍馬を愛し、龍馬に憧れ、龍馬にひかれてここに足を運んだ人達が心満たし、再来を約して去る記念館となりたいものです。

皆様方のご指導ご助言よろしくお願い致します。

矢　野　ゆかり

満開の桜の花と、太平洋の青さと、職員のみな様に迎えられ、新しい門出にふさわしい日となりました

私の引出しの中に収納スペースが増え、必要な時に取り出して利用出来るように、大切にする心を持ち、勤めてゆきたいと思います。

題字「飛騰」について

文久元年（1861）10月11日、龍馬は剣術修行のため、１か月の国暇を得て、讃岐丸亀の矢野市之丞の道場へ旅立った。この日、樋口真吉は、日記に「坂龍飛騰」と記した。

龍馬は更に国暇延長の許可をもらい、極秘裡に長州へ赴いた。彼は武市半平太の久坂玄瑞宛親書を携えていたのである。

長州萩に着いた龍馬は、久坂玄瑞を訪れて半平太の親書を手渡し、国事について会談する。

今まで一介の武芸者に過ぎなかった龍馬が、この旅を機に勤王の志士へと脱皮していくのである。矢野市之丞の所へ行った目的を予め知っていた樋口真吉は、龍馬への期待をこめて「坂龍飛騰」と記したのであろう。翌２年３月、龍馬は脱藩する。

拝啓 龍馬殿

● お久しぶりです。前回は全く余裕がありませんでしたが、あの桂浜で初めて隊長に会えた時の身のふるえと感動が忘れられず、また戻って来ました。変りない隊長の姿をみて安心するどころか、再び体のふるえが止りませんでした。

まだまだ目的が定まらず四苦八苦していますが、必ず天職を見つけるためただただ努力するのみです。また戻ってきます。その時もう一度気合でも一発入れてやって下さい。

（３月20日　千葉県　Ｓ・Ｈ　男性）

● 20歳代前半から貴殿のファンになり、いつか桂浜の貴殿におあいできる日を待ちつつとうとう貴殿の一生涯の年齢になって今日ここえ来ました。桂浜の貴殿は想像どうりの姿でした。でも意外だったのはすごく大きかった。貴殿の横にならんでブロマイドのような写真をとりたかったのに足元にもおよばず、やっぱり貴殿はここでも私には大きすぎました。そして貴殿は足元の下世話な物事には目もくれず、遠く遠く太平洋のかなた、静かなまなざしで何を考えておられるのか？

今平成の世、まったくどうかしてますよね。貴殿の平和な自由な理想国家どころか!!、政治家の方々には貴殿の爪のアカでもせんじて飲んでもらいたい。人生望みはチマチマせず、おおらかに生きてゆくべきだと、貴殿の像の前で桂浜をみながら思いました。また来ます、桂浜で名月を見ながらデートして下さい。

（４月４日　奈良県　Ｓ・Ｋ　女性）

● 私は今高校２年生です。遠足で来ています。龍馬さんが現在生きていたら友達になりたかったと思います。これからまた高知に来ることがあればここに来たいと思います。

何のとりえもない女子高校生だけど龍馬さんに逢えば元気がでてくる気がします。

天国で幸せにくらして下さい。

（４月13日　香川県　Ｔ・Ｊ　女性）

（４月５日　沖縄県　Ａ・Ｋ　男性）

● 前略、あなたに憧れて岡山より参りました。心の温かさ、真実の力強さが伝わってきました。あなたの瞳は土佐の海を渡ってはるか遠い国を見つめていたのですね。あなたに会ってあなたの話をゆっくりと聞きたいのです。あなたの人柄にもっと触れてたくさんの夢を聞くことができたらどんなにすてきなことでしょうね。

今日はありがとうございました。またいつかお会い出来ることを夢みて。

かしこ

（４月20日　岡山県　Ｒ・Ｉ　女性）

館だより　“飛　騰”　第13号
平成７年（１９９５）５月１日発行
発行所　高知県立坂本龍馬記念館
〒781－02　高知市浦戸城山８３０
ＴＥＬ　(0888) 41－０００１
ＦＡＸ　(0888) 41－００１５

龍馬会見!!50万人

平成７年５月15日、龍馬は50万人目の入館者と出会いました。平成３年11月15日、開館のテープがカットされて1265日目のことでした。

50万人目の入館者は、高知市長浜4133－10、宮本修成さん（45）でした。過去５万、10万、20万、30万人目と４回の記念事業を行いましたが、県内の方が入館記念者となったのははじめてでした。

御家族４人で記念館を訪れた宮本さんは、小椋館長から渡された記念品や花束を手にニッコリ、「記念館は家から５分位のところですし、ほんとうの地元です。連休を返上して働き、その代休に家族と一緒に来たところ、思いがけない50万人目となって光栄です。移動クレーンのオペレーターでもあり、平成２年から３年にかけて、この龍馬記念館の建設工事にもかかわりました。記念品は家宝にします」と感慨深く話されますと、「それこそ龍馬のめぐりあわせ」と周囲から声もかかりました。

宮本さんに手渡された記念品は、慶応２(1866)年、龍馬30歳の頃、長崎で上野彦馬の撮影によるとされ、桂浜銅像の原型ともなったという由緒ある額付き全紙大の龍馬立像写真と、県内出身のマンガ家、横山隆一、黒鉄ヒロシ、はらたいら、岩本久則、やなせたかし、青柳裕介等６氏の原画による「マンガ龍馬物語」のテレフォンカードセット（６枚組）や、元高知市助役宮地英彦氏の水彩画絵ハガキなどでした。

また館では、先着200名様に宮地氏の絵ハガキセットの贈呈と、希望者に記念館のスタンプを捺した官製ハガキをさしあげ、お好みの方に便りを出していただく「坂本龍馬記念館からの情報発信」キャンペーンも行いました。ハガキには桂浜郵便局の、龍馬銅像と記念館をデザインした５月15日付の風景スタンプも捺してあります。記念館から那覇の人、甲府の人、そして富山の人々へとそれぞれメッセージが発信されました。

それぞれの思いを
坂本龍馬記念館
より発信

50万人目の入館者となった宮本さん御一家も、1時間半かけてゆっくりと館内を見学し、情報発信のイベントにも50万人入館者となったよろこびを、知人、友人に発信されました。

記念品を手渡した小椋館長は、「30万人までと比べると、バブル崩壊、猛暑、水不足、震災などをはさんだこの期間は、やはり歩みが遅かったようです。しかし開館3年半で全国各県から50万人の方が足を運んでくださったということは、坂本龍馬さんのおかげと思っています。特に若いお客様が全体の半数以上あることを考えますと、次代を担う人達に龍馬の柔軟な発想とすぐれた感覚、大きな目標の設定に対する実行力など、いわゆる龍馬スピリットの理解をよびかけた当記念館設立の趣旨に添った傾向、と喜んでおります。次の100万人に向け努力をかさねます」と50万人目への喜びを語っていました。

499,999人目の受付

入館者数あれこれ

年別入館者数

平成3年（11、15～12、26）	21,714人
平成4年（1、2～12、26）	158,091人
平成5年（1、2～12、26）	153,815人
平成6年（1、2～12、26）	122,068人

入館者記念事業日

5万人目（矢野昌之さん―香川県）	平4、3、3
10万人目（廣瀬辰男さん―北海道）	平4、6、23
20万人目（小黒勝之さん―東京都）	平5、3、12
30万人目（幡本昌直さん―兵庫県）	平5、9、15
50万人目（宮本修成さん―高知県）	平7、5、15

平成7年5月14日現在　開館以来1264日目

総入館者数		499,925人
最多入館者数	平5、5、3	3,700人
最少入館者数	平6、9、29(台風)	23人
6年度最多入館者数	平6、5、3	1,989人
6年度最少入館者数	平6、9、29(台風)	23人
6年度1日平均入館者数		325人